



総会風景—新役員の紹介—

平成三年度通常総会

細則ならびに支部規定を改訂

新副会長に松田雄一氏

平成三年度の通常総会が去る五月十八日、午後三時より東京・千代田区内神田のコープビルで、総務担当藤井正彦理事の司会によって開催された。

この通常総会には会員二四三八名(委任状を含む)が出席、議案①平成二年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件②平成三年度事業計画案および収支予算案承認の件③平成三年度役員および評議員改選の件④細則ならびに支部規定改訂の件⑤平成三年度除籍の件⑥その他について慎重審議した結果、いずれもこれを原案どおり可決、承認した。

まず、開会に当って山田二郎会長が



1991 年 (平成 三年)

7 月号 (No. 554)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

目次

平成三年度通常総会	(1)
海外の山	(2)
「女の二十年史」	
ナムチャバルワ、上高地山岳研究所	(4)
合同募金のお願ひ	(5)
収支計算書	(6)
正味財産増減計算書	(6)
貸借対照表	(7)
財産目録	(8)
収支予算書	(9)
平成三年度事業報告	(10)
平成三年度事業計画	(11)
東西南北	(11)
「自然保護憲章と五輪塔」「カラパタル便り(2)」	(11)
報告	(12)
「永年会員、中沢真二氏を囲む会」	(12)
「名誉会員を囲む会」「国際化交流事業」「第 45 回ウエスタン祭」	(12)
書籍、雑誌受入れ報告	(13)
ナムチャバルワトレッキング隊募集	(13)
会務報告	(15)
「5 月定例理事会」「支部長、支部事務局担当者会議」「評議員会」「新年度第 1 回理事会」「ルーム日誌」「タンポチェ僧院再建協力募金者ご芳名」「新入会員(復活)」「住所・住居表示変更」	(17)
お知らせ	(17)

大要次のような挨拶を行った。

「昨年从今年にかけて大きなプロジェクトが目白押しに並んでいます。会員各位におかれては既に会報等でご存知のようにまず、第一が本年十月十一月にかけて行われるナムチャバルワの登山、次いで本年度から明年度にかけて実施する上高地の山研の建替え作業そして十一月に行われる HAT-J の国際会議への協力等であります。これらにつきましてはそれぞれ着々と準備を進めており、本日既にその第一回募金委員会が発足しております。次に大きな社会的非難の的になっているいわゆる初歩的な冬山遭難の多発であります、これにつきましては日山協と共同で異例の「春山遭難予防の要望書」を出しております。また、私の会長就任以来の懸案でありました会の組織の見直しであります

分業整理致しました。その他、中高年登山者の急増もゆるがせにできない問題であり、これについては文部省登山研修所・生涯スポーツ課が中心になって現在、中高年登山者向けの手引き書を作成中であり、会としても並行して前向きにとり組んでいくことになろうかと思えます。いろいろ課題の多い年になりそうですが、会員各位の一層のご支援のほどをお願い致します。

議案審議に先だって藤井理事による会務報告が行われ、それによれば名誉会員二四名、永年会員三三名、終身会員七三名、通常会員四四八名、計四六七七名。平成二年度新入会員二二八名、復活会員一名、物故会員二五名、退会二六名、除籍四五名で前年度との差は一五三名の会員増であった。次に物故会員(後掲)であるが、次々

▶日本山岳会事務取扱時間
月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祭日・月曜を除く毎日 13時～20時
▶ルーム夏休み
8/12(月)～8/17(土)

お知らせテップ電話

3234 六六五九

が、本日その成案を提出してご審議をいただくわけですが、その骨子としては従来の横並びの委員会に對しましてライン、スタッフ、部会的な三つのグループに

にその名前が読み上げられたあと、全員で黙禱が捧げられた。

次いで議長に定款二十七条により山田会長を選出、三分の一以上の出席者により三十三条の条件を満たすものとして総会成立を宣言、議事録署名名人に高遠宏、岩瀬秀郎の二氏を指名したのち議事に入った。

第一号議案は平成二年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件であるが前者については藤井理事、後者については西村政晃財務担当理事がそれぞれ説明した。それによれば平成二年度の主な行事は全国支部集会・'90蔵王の集い、'90由布岳の集い、恒例の年次晩餐会には六三〇名という多くの会員が集まった。また研究会、講習会、展覧会など例年通り数多く行われたほか、登山施設の改善、その他登山のための適切な事業には昨年度は上高地山岳研究所改築特別委員会の設置および検討、自然保護活動の推進にはHAT・J発会式に協力、機関紙などの発行には「山岳総合索引」の発行、その他国際交流にはHATの第一回ヒマラヤ環境会議に参加したほかタンポチエ僧院再建基金に協力するなど、例年になく特別の事業も数多く行われた。

収支決算、財産目録承認の件では、結論的には昨年度は事業活動が活発に行われたにもかかわらず、会員増など

海外の山

女の二十年史

登れるわけじゃないか。

世間の大方の見方は、そんなものだったろう。一九七五年の女性エベレスト隊への評価である。

一九五三年のイギリス隊の初登頂以来、既に何か国もの隊が登っているとは言え、世界最高峰の頂きを踏んだのは、まだ三十五人だけだった。

意気は買う、とのシンバもいた反面、女が何故ヒマラヤへ？という反発もあった。企業の協力が芳しくなかったのは、七四年女性初の八千以上に登頂した「ユングフラウ隊」と同じである。

最近発行された「女子登攀クラブの二十年」という本を読んでいて、二十年前の女性たちの苦しい準備状況を感じ出した。

「女性だけでヒマラヤへ、という思いから女子登攀クラブが発足したのは、一九六九年。人類が初めて月に降り立った年だ。日本山岳会隊がエベレストに登った翌七〇年、アンナプルナIII峰（七五七七）の登頂に成功、最初の目的を果す。七二年以後エベレスト計画に入り、前進ベースキャンプへの雪崩にもめげず、七五年五月一六日、メンバー一人とサード一人が登頂した。

以後、シシャパンマ（八〇二二）、八一年中国、登頂）ジチュダケ（六七九〇）、八三年ブータン、断念）トムール（七五三五）、八六年中国、断念）ガッシャブルムII（八〇三五）、八八年パキスタン、登頂）ダウラギリI（八一六七）、九〇ネパール、登頂）と、着実に

夢を広げてきた。

クラブ主催の登山以外でも、メンバーはヨーロッパ・アルプス、アフリカ、南北アメリカへと行動半径を縦横に広げ、この一月には南極大陸最高峰ビンソンマシフにも登ってしまっている。

アンナプルナIII峰当時の仲間割れ、などから女同士の戦いにもっぱら関心を持つ向きがないでもないが、そして結婚や出産などでメンバーの出入りが多いのも事実だが、どうやら悲壮感をあまり持たないで、とにかく楽しく登り続けよう、というのが女子登攀クラブの山登りの方針のようだ。

実際には相当厳しい登攀を強いられることが多いだろうが、幸い、死者は出していない。それぞれのメンバーが方法は別として「楽しむための山」に徹しているように思われる。その結果が、女子のグループでは珍しい、二十年間の元氣な活動の継続につながったのだろう。

日本人の海外渡航が自由化されたのは、一九六四年、ドル13百六十円だった為替レートが変動制に移行したのが一九七一年だった。続いて「国連婦人の十年」があり、「日本人は働き過ぎ、もっと遊ぶべきだ」という声も出てきた。この間装備は軽量化され、交通の便はぐんと良くなった。「つまり一口でいえば、この二十年は「女が海外の山に登りやすい条件が整った二十年」でもある」と二十年史は、総括している。

モンゴルやパタゴニアの記録、はてはネパールの映画に取りつかれたメンバーの報告まであって、この二十年史」は、読物としてもなかなか面白い。

女性の山登りだからこそ、その向こうに現代の世相が透けて見えるのだろう。

（江本嘉伸）

海外の山

による会費収支の増大と、逆に費用の方は非常によくコントロールされた結果、最終的には極めて健全な状態で推移してこの二年度の決算をすることができた。

まず収入の部であるが予想以上の会員増と高会費納入率(九二・七九%)などにより二八六万円、事業収入も販売品、チョモランマの報告書の売上げなどにより三八一万円、高金利に支えられた受取利息・雑収入も七八四万円(放送文化基金助成金二〇〇万円含む)ほどそれぞれ予算を上回り、結果的には当初予算五三六五万円に対し六八二六万円と一四六一万円上回る

ことになり、それに前期の繰越収支差二四八三万を加えた九三二〇万円が今期の収入総額ということになった。

これに対し支出の部は極めてよくコントロールされたが費目別に見ると、事業費が予算を五〇三万円上回ったものの、管理費はほぼ予算通りでおさまられた。固定資産取得支出は液晶ビジョン等を購入したものである。各種積立金の積み増しに伴う特定預金支出が四四一万円予算を上回ったので当期支出予算五三六二万円に対し決算額は六三三万円で七五五万円上回った。当期収支差額としては六八九万円を計上することができその結果、次期繰越収支差額は三一七三万円となり予

算を六八六万円上回った。

次の正味財産増減計算書は公益法人の会計基準に従ったもので、当期正味財産の増加額は一三九六万円、期末の正味財産合計額は二億四六一七万円となった。貸借対照表・財産目録についても別掲(六八頁)の通りであるが、貸借対照表にはナムチャバルワ峰登山偵察隊費用等の六五四万円の仮払金が含まれているが、これは募金活動により三年度にはクリアされることになっている。

以上に対し太田監事より正確かつ妥当である旨の監査報告があった後、審議に入り、満場一致の拍手の中に承認された。

第二号議案平成三年度事業計画案および収支予算案についても、同じく藤井、西村両理事からそれぞれ説明がなされた。

まず事業計画の主なものは岐阜支部の創立二十周年、東海支部創立三十周年のそれぞれの記念山行(行事)、富山支部での全国支部集会、上高地山研の改築計画の検討、解体(四十月)、全国一斉清掃登山(6・2・9)、HAT国際会議(11・9・10)、日中合同ナムチャバルワ峰登山隊の派遣などが行われるほか平成三年度も例年通り多彩な行事が展開される。

これに伴っての収支予算も収入につ

第二十七回 観光週間(八月一日～七日)の目的

- ① 観光道徳の高揚
- ② 観光地の美化

ものだと考えられる。

いは前年の五三六五万円に対し五七一二万円で三三七万円増を見込み、これに前期繰越収支差額を加え三年度収入合計は八八八五万円を見積っている。これに対して支出の部についてはまず事業費は予算額二九二七万円で前年度より一一三万円多くみており、ここに計上している海外登山補助費三五〇万円は海外登山基金の助成費である。管理費については予算額二二〇八万円で前期に対し八五万円増ということになる。ここで特に大きなものは修繕費の二二〇万円であるが、これは上高地山研の解体費である。固定資産取得支出は前年度より二九八万円多いが、これは上高地山研の設計料三五〇万円を計上したためである。また予備費を三八〇万円と異例に大きくしたのは上高地山研の募金費用に一部当てるため、以上の結果、当期の支出合計は六一八八万円で前年度を八二六万円上回っている。従って当期の収支差額は前年度予算に比べ四七六万円のマイナスになるが、次期繰越収支差額は二六九六万円で、前年度実績より多少少なくなるが次期繰越額としては充分な

総務委員会

続く第三号議案の前に第四号議案「細則ならびに支部規定改訂の件」が上程され、これについては松田常務理事が予め配付された資料にもとづき概略次のような説明を行った。

まず細則の改定については、昨年の総会で山田会長より組織見直しの提案があり、それについて先般改正案が示されたので理事会その他で慎重審議の結果を反映したものである。

その改正の主なものは現在の委員会制度の見直しであり、第二条には従来のように委員会を横並びに固定せず、それぞれの委員会の性格からライン部門、スタッフ部門、部会的なものとしてグループわけしていくことが明記されたことである。そのほか三条(委員会の構成)、四条(委員の任期)、十条(会費納入方法の変更)、十一条(支部還付金)、二十二条(休室日、開室・閉室時間の明確化)等もそれぞれ改正されたが、それは現在の実態に近か

支部設立並びに運営に関する規定は昭和四十一年四月に制定。それ以来改

定されておらず、現在の実情からすると中味が矛盾している部分があるということでの改定である。主なものは第五条の理事・評議員会を理事会に、八条に副支部長の規定を追加、十条の支部役員任期を本部役員に合せること、十三条の支部総会の報告期日は五月十日までとするなどである。

第三号議案は本年度は役員改選期に当たるためのもので、予め配られた執行部の原案(後掲)通り異議なく承認され、ここに平成三年度新体制が整った。

ナムチャバルワ登山隊 上高地山岳研究所再建

合同募金のお願ひ

会長 山田二郎

謹啓 会員の皆様におかれましては時下益々清祥の段、大慶に存じ上げます。

すでにご高承のように、一九九一年日本・中国ナムチャバルワ合同登山隊は、去る五月一日に議定書の調印を無事終了いたしました。

本会としては、日中国交正常化二十周年記念事業として、日中合同によるナムチャバルワ峰(七七八二

最後の平成三年度除籍の件は、ここ二年間の会費滞納者であるが、対象者リスト(五頁)の中に知った名前があれば、極力会費納入を働きかけて欲しい旨、要望があった。

以上で、全議案はすべて原案通り、異議なく拍手のうちに承認され、午後四時、平成三年度通常総会は無事終了した。

総会終了後は席を十一階の食堂に移して、恒例の懇親会が入澤集會担当理事の司会のもとになごやかに開催され

た。初登頂に全力を傾注するため、登山隊事務局を設置し実行委員会を核として具体的な登山準備を行っております。

とくに今回は本会の経費負担も従来の'80年チョモランマ隊、'88年三國友好登山隊に比べて厳しいものがあり、募金活動は登山隊派遣上不可欠なものとなります。

また、数年来懸案事項でありました日本山岳会上高地山岳研究所の再建と併せて、募金活動を行うことになりました。

会員の皆様におかれましては、募金活動の趣旨をご理解いただき、何卒よろしくお願い申し上げます。

た。席上、新役員・評議員を代表して新副会長の松田雄一氏は「山研の改築、ナムチャバルワ峰登山、HATの国際会議などを控えてJACもまことに多事多難であり、山岳界も多様化、国際化、中高年登山者問題など大きな波が押し寄せてきている。なかなか大変な時ではあります。皆さまのご協力を得て何とか立派にやり抜いて行きたい」と力強くその抱負を語った。乾杯の音頭は吉澤名誉会員、スピーカーは金子前ネパール大使、田部井HAT-J代表、閉会の辞は村木前副会長。閉会は午後六時。

物故会員は次の通り。敬称略

三田幸夫、後藤幹次、初見一雄、篠田軍治(以上名誉会員)、神津得一郎、笠原潤二郎、桜井信雄、百瀬舜太郎、跡部昌三、榎本豊松(以上永年会員)伴野清、米田泰男、高木健太郎、内田英夫、宮崎克之助、辻井秀一、玉名金助、根本大、斉藤清吉、渡辺嘉男、沼倉寛二郎、早川良太郎、斉藤啓助、矢野真、加賀谷功

(文・写真 小倉 厚)

(平成三年度役員および評議員)

▼会長 山田二郎(再任) ▼副会長 藤平正夫(再任)、松田雄一(新任) ▼理事 入澤郁夫、穴田雪江、小倉厚、山本良三、神崎忠男、関口令安、伊丹紹泰、重廣恒夫、石橋正美、藤井正彦

◎自然観察山行

自然保護委員会

テーマ ニヶ禿山と玉原湿原の観察
期日 九月一日(日)日帰り
集合場所 新宿西口スバルビル横
集合時間 午前六時半
費用 四千元(バス代)
携行品 雨具・弁当・水筒・防寒具
地図 2万5千 藤原湖
申込み 八月二十八日(水)まで事務局内自然保護委員会までハガキまたは電話で

玉原湖からニヶ禿山に登り(歩程三時間)、玉原湿原を探勝します。貸切バス利用のため、間違ひなく参加できる方の申込みを希望します。(雨天決行)

(以上再任)、小倉茂輝、大森弘一郎、山口俊輔、村井龍一、大倉昌身、片岡泰彦、南川金一(以上新任) ▼監事 飯野亨(再任)、中島伊平(新任) ▼評議員 今西寿雄、吉村健児、大塚博美、室賀輝男、佐藤光、嶋原啓佑、奥原教永、河野長、橋本清、大森久雄(以上再任)、西丸震哉、村木潤次郎、徳久球雄、鈴木郭之、国見利夫、齋藤惇生、湯浅道男、田部井淳子、廣江研、西村政晃(以上新任)

海外諸関係費	200,000	51,388	148,612
山岳研究所運営費	2,200,000	2,080,396	119,604
その他事業費	1,600,000	5,116,647	-3,516,647
印刷・製本費	500,000	622,490	-122,490
通信運搬費	3,500,000	3,559,913	-59,913
海外登山補助費	3,000,000	6,000,000	-3,000,000
事業費計	28,143,000	33,177,588	-5,034,588
2.管理費			
給料・手当	7,600,000	7,570,200	29,800
文具・消耗品費	150,000	209,836	-59,836
印刷・製本費	2,000,000	2,120,393	-120,393
旅費・交通費	1,300,000	2,096,964	-796,964
通信・運搬費	1,200,000	1,014,219	185,781
火災保険料	100,000	78,760	21,240
修繕費	100,000	53,764	46,236
租税公課	600,000	432,100	167,900
光熱水料費	500,000	399,863	100,137
電話料	300,000	293,405	6,595
会議費	500,000	122,413	377,587
什器備品費	170,000	176,954	-6,954
振替手数料	300,000	256,990	43,010
支部運営費	3,500,000	3,042,000	458,000
福利厚生費	160,000	130,953	29,047
事務所管理費	750,000	714,791	35,209
その他の管理費	1,500,000	1,025,050	474,950
負担金	0	135,000	-135,000
雑費	500,000	1,104,035	-604,035
管理費計	21,230,000	20,977,690	252,310
3.固定資産取得支出			
什器備品購入支出	750,000	801,496	-51,496
4.特定預金支出			
図書出版研究基金支出	0	250,000	-250,000
長期計画積立金支出	2,000,000	4,020,915	-2,020,915
登山特別基金支出	0	1,126,631	-1,126,631
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	1,020,000	-1,020,000
退職給付積立金支出	0	0	0
特定預金支出計	2,000,000	6,417,546	-4,417,546
5.予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	53,623,000	61,374,320	-7,751,320
当期収支差額(A)-(C)	27,000	6,893,327	-6,866,327
次期繰越収支差額(B)-(C)	24,864,793	31,731,120	-6,866,327

収支決算書

平成2年4月1日から平成3年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	499,730	-99,730	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,570,000	-570,000	
復活会費収入	0	165,000	-165,000	
通常会費収入	40,000,000	41,109,500	-1,109,500	
終身会費収入	0	1,020,000	-1,020,000	
会費・入会金収入計	43,000,000	45,864,500	-2,864,500	
3. 事業収入				
広告料収入	1,800,000	2,066,412	-266,412	
印税収入	20,000	20,199	-199	
刊行物売上収入	800,000	222,000	578,000	
その他事業収入	800,000	4,817,350	-4,017,350	
山研使用料収入	1,330,000	1,437,261	-107,261	
事業収入計	4,750,000	8,563,222	-3,813,222	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
5. 雑収入				
受取利息	5,000,000	10,881,829	-5,881,829	
雑収入	500,000	2,458,366	-1,958,366	(注)1
雑収入計	5,500,000	13,340,195	-7,840,195	
6. 特定預金取崩収入				
図書出版基金取崩収入	0	0	0	
7. 特定預金運用収入				
特定預金運用収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	53,650,000	68,267,647	-14,617,647	
前期繰越収支差額	24,837,793	24,837,793	0	
収入合計(B)	78,487,793	93,105,440	-14,617,647	

(注) 1. ナムチャバルワ登山に対する
「放送文化基金」助成援助金 2,000,000 円

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,913,000	10,406,354	506,646	
図書費	950,000	335,402	614,598	
調査研究費	860,000	898,062	-38,062	
指導費	920,000	900,096	19,904	
支部関係費	3,500,000	3,206,840	293,160	

平成3年度末滞納除籍予定者

会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名	会員番号	会員氏名
04537	千葉大学医学部山岳部	06877	黒木邦夫	07724	波田山岳会	08698	高橋国廣	09295	橋本しをり	09795	中山茂樹
04591	木村祐三	07052	佐藤徳太郎	07920	三浦幸一	08717	谷 衛	09407	青木研三	09802	西山正彦
05031	大久保泰司	07290	畑内 明	08130	藤原邦俊	08926	佐藤 巧	09474	山下 牧郎	09871	丹 直喜
05237	花岡頼充	07484	鶴田 進	08167	福成照夫	08966	長谷川 章	09553	吉田 辰明	10250	Swan R.
05714	小野龍弥	07525	野口豊市	08246	上飯屋正和	08984	藤井宗次	09617	柴田 聞	10297	小林 亘
06615	榎本則明	07550	村橋嘉一郎	08274	佐野 博	09004	富山八十八	09644	小林新二	10337	長野 宏
06805	松村昭則	07572	小田島泰宏	08439	五十嵐 勲	09114	野添 雅義	09751	徳留 幸子	10340	荒木太加男
06869	片山 博	07676	小柳せい子	08493	柴田 浩	09289	大槻久江	09787	斎藤伸市	09830	尾崎陽子

2. 固定負債			
退職給与引当金	3,300,000		
固定負債合計		3,300,000	
負債合計			3,791,290
[3] 正味財産の部			
正味財産			246,175,924
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産増加額)			13,963,329
負債及び正味財産合計			249,967,214

(注) 1. ナムチャバルワ峰登山偵察隊費用等

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の100%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金、預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
"(日本)	420,000	0	0	420,000
"(中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計(基本金)	8,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	24,739,781	22,545,457	
未 収 会 費	3,686,000	3,132,000	
仮 払 金	0	6,544,953	
合 計	28,425,781	32,222,410	
前 受 会 費	171,000	147,000	
預 り 金	3,416,988	344,290	
合 計	3,587,988	491,290	
次期繰越収支差額	24,837,793	31,731,120	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	36,006,808	0	36,006,808
什 器 備 品	5,581,996	0	5,581,996
合 計	41,588,804	0	41,588,804

正味財産増減計算書

平成2年3月31日～3年3月31日

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	6,893,327	
図書出版研究基金	250,000	
長期計画積立金	4,020,915	
登山特別基金	1,126,631	
終身会費積立金	1,020,000	
什器・備品購入額	801,496	14,112,369
増加額計		14,112,369
II. 減少の部		
1. 資産減少額		
棚卸資産減少額	149,040	149,040
減少額計		149,040
当期正味財産増加額		13,963,329
前期繰越正味財産額		232,212,595
期末正味財産合計額		246,175,924

貸 借 対 照 表

平成3年3月31日現在

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現 金	199,583	
振替貯金	632,899	
普通預金	7,712,975	
定期預金	14,000,000	
未収会費	3,132,000	
仮払金(注)1	6,544,953	
棚卸資産	1,808,830	
流動資産合計		34,031,240
2. 固定資産		
基本財産		
貸付信託	8,000,000	
基本財産合計	8,000,000	
その他固定資産		
土 地	46,297,170	
建 物	36,006,808	
什器備品	5,581,996	
図書出版研究基金	4,190,000	
長期計画積立金	20,930,000	
登山特別基金	16,340,000	
海外登山基金	70,000,000	
終身会費積立金	5,290,000	
退職給与積立金	3,300,000	
その他固定資産合計	207,935,974	
固定資産合計		215,935,974
資産合計		249,967,214
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費	147,000	
預り金	344,290	
流動負債合計		491,290

注 1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳覆刻版等	956,150
服飾品・その他	クラブタイ Tシャツ等	852,680
合 計		1,808,830

注 2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室	金 額 (円)
場所 東京都千代田区四番町5番4 構造 鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付 5階建 (事務所)区分所有建物1階部分 103.32 m ² 宅地特分 1,124.56 m ² ×339/10,000 =38.122584 m ² (図書室)区分所有建物1階部分 55.22 m ² 宅地特分 1,124.56 m ² ×176/10,000 =19.792256 m ² 計 158.54 m ² 宅地特分 57.91484 m ²	72,720,170
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い 林小班 構造 鉄筋コンクリート造(一部木造) 1 棟 100.69 m ²	9,583,808
合 計	82,303,978

2. 什器備品

品 名	取 得 年月日	取得価格	所在
大テーブル(2台セット) チーク材 750×1200×720	48. 7.31	164,200	上高地
ソファセット, チーク材レザー張	48. 7.31	178,000	上高地
書庫内移動書架一式, コンパクル	53. 2.10	1,500,000	図書室
応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談話室
閲覧用テーブル(2台) 木製	53. 9.28	250,000	図書室
ライティングビューロー, 木製	54. 6.23	280,000	図書室
テレビ, シャープCT-2600 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談話室
ビデオカセットレコーダー, シャープ VC-7000	55.12.27	116,000	談話室
フィルム収納キャビネット(スチール 製品)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器, 木製3段	56. 9.12	200,000	図書室
書 棚, 木製2段	56.12.22	500,000	図書室
16 mm 映写機 16-CL (HO)	61. 5.13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61.10.17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ WJ-R 70 F II	62. 3.12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62. 9.24	700,000	図書室
ソビエト製タン酸素ボンペー本	2. 7.12	96,114	事務所
シャープ液晶ビジョナー式	2. 7.19	587,932	事務所
ダンロップテント V 600, V 600 S 一式	2. 3.22	117,420	事務所
合 計		5,581,996	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈品)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成2年度 受入冊数 176 冊	8485 冊
洋 書	平成2年度 受入冊数 14 冊	2940 冊

財 産 目 録

平成3年3月31日現在

科 目	金 額	
[1] 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	199,583	
振替貯金		
東京地方貯金局	632,899	
普通預金		
協和銀行市ヶ谷支店	5,177,633	
三菱銀行市ヶ谷支店	313,943	
三菱銀行市ヶ谷支店	2,000,000	
三和銀行本郷支店	173,950	
中央信託銀行本店	1,055	
三井信託銀行新宿西 口支店	3,522	
日本信託銀行本店	42,872	
定期預金		
協和銀行市ヶ谷支店	14,000,000	
未収会費 332 名分	3,132,000	
仮払金	6,544,953	
棚卸資産・1	1,808,830	
流動資産合計		34,031,240
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
貸付信託		
三井信託銀行本店	2,380,000	
日本信託銀行本店	420,000	
中央信託銀行本店	5,200,000	
基本財産合計	8,000,000	
(2) その他固定資産・2		
土地 57.9148 m ²	46,297,170	
建物 259.23 m ²	36,006,808	
什器・備品	5,581,996	
図書出版研究基金(定期 預金・協和市ヶ谷)	4,190,000	
長期計画積立金(定期 預金・三菱市ヶ谷)	17,930,000	
長期計画積立金(定期 預金・協和市ヶ谷)	3,000,000	
登山特別基金(定期預 金・三菱市ヶ谷)	16,340,000	
海外登山基金(定期預 金・協和市ヶ谷)	70,000,000	
終身会費立(定期預金 ・協和市ヶ谷)	5,290,000	
退職給与積立金(定期 預金・協和市ヶ谷)	3,300,000	
その他固定資産 合計	207,935,974	
固定資産合計		215,935,974
資産合計		249,967,214
[2] 負債の部		
1. 流動負債		
前受会費 16 名分	147,000	
預り金 職員に対する 源泉所得税他	344,290	
流動負債合計		491,290
2. 固定負債		
退職給与引当金	3,300,000	
固定負債合計		3,300,000
負債合計		3,791,290
正味財産		246,175,924

雑収入	400,000	500,000	-100,000
雑収入 計	6,400,000	5,500,000	900,000
6. 特定預金取崩収入			
図書出版基金取崩収入	0	0	0
当期収入合計 (A)	57,120,000	53,650,000	3,470,000
前期繰越収支差額	31,731,120	24,837,793	6,893,327
収入合計 (B)	88,851,120	78,487,793	10,363,327

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	10,906,000	10,913,000	-7,000	
図書費	950,000	950,000	0	
調査研究費	865,000	860,000	5,000	
指導費	868,000	920,000	-52,000	
支部関係費	3,500,000	3,500,000	0	
海外諸関係費	200,000	200,000	0	
山岳研究所運営費	1,990,000	2,200,000	-210,000	
海外登山補助費	3,500,000	3,000,000	500,000	
その他事業費	2,500,000	1,600,000	900,000	
印刷・製本費	500,000	500,000	0	
通信運搬費	3,500,000	3,500,000	0	
事業費計	29,279,000	28,143,000	1,136,000	
2. 管理費				
給料・手当	8,000,000	7,600,000	400,000	
文具・消耗品費	200,000	150,000	50,000	
印刷・製本費	1,200,000	2,000,000	-800,000	
旅費・交通費	1,500,000	1,300,000	200,000	
通信・運搬費	1,200,000	1,200,000	0	
火災保険料	100,000	100,000	0	
修繕費	2,200,000	100,000	2,100,000	(注)1
租税公課	600,000	600,000	0	
光熱水料費	450,000	500,000	-50,000	
電話料	320,000	300,000	20,000	
会議費	200,000	500,000	-300,000	
什器備品費	200,000	170,000	30,000	
振替手数料	300,000	300,000	0	
支部運営費	3,500,000	3,500,000	0	
福利厚生費	160,000	160,000	0	
事務所管理費	750,000	750,000	0	
その他の管理費	600,000	1,500,000	-900,000	
負担金	0	0	0	
雑費	600,000	500,000	100,000	
管理費計	22,080,000	21,230,000	850,000	
3. 固定資産取得支出				
什器備品購入支出	230,000	750,000	-520,000	
建設仮勘定支出	3,500,000	0	3,500,000	(注)2
固定資産取得支出計	3,730,000	750,000	2,980,000	
4. 特定預金支出				
長期計画積立金支出	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
5. 予備費				
予備費	3,800,000	1,500,000	2,300,000	(注)3
当期支出合計 (C)	61,889,000	53,623,000	8,266,000	
当期収支差額 (A)-(C)	-4,769,000	27,000	-4,796,000	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	26,962,120	24,864,793	2,097,327	

(注) 1. 上高地山研解体費 2,100,000 円を含む

(注) 2. 上高地山研設計料 3,500,000 円

(注) 3. 上高地山研募金経費 1,500,000 円を含む

2. 絵 画

題 名	種類、号数	作 者 名	掲載、保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	日本民族資料館
田代池の白樺	油変形 -6	中村清太郎	談 話 室
群 猿	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊豆半島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥(カッタ原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギ ントワイト	図 書 室
ユングフラウ	油	山里 寿男	集 会 室
瀬沢より北穂高	水彩 -6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北穂高滝谷	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
或朝の槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	集 会 室
北穂高岳主峰	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
槍ヶ岳	油 - P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチエの僧院	水彩 -4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩 -5	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山(清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水 彩	渡辺 九郎	事 務 室

・他の絵画、写真 省略

3. フィルム 「マナスルに立つ」他 83 点

社団法人日本山岳会平成2年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成3年4月11日

社団法人 日本山岳会 監事 太田 敬
監事 飯野 亨

収 支 予 算 書 (案)

平成3年4月1日から平成4年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産 利息収入	400,000	400,000	0	
2. 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,000,000	0	
通常会費 収入	41,000,000	40,000,000	1,000,000	
終身会費 収入			0	
会費・入会員収入計	44,000,000	43,000,000	1,000,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,800,000	-300,000	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	800,000	800,000	0	
その他事業収入	2,500,000	800,000	1,700,000	
山研使用料収入	1,500,000	1,330,000	170,000	
事業収入 計	6,320,000	4,750,000	1,570,000	
4. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
5. 雑収入				
受取利息	6,000,000	5,000,000	1,000,000	

- 3月 7日 ナムチャバルワ偵察報告会 本会
 3月 15日 山岳図書を語る夕べ「山の画文集」 山里寿男 本会
- 3月 16日 第17回 新入会員オリエンテーション 上智大学
 (2) 研究会
 5月 12日 シンポジウム「山岳における自然エネルギー利用」 鳥居, 今田他 青山学院大学
 7月 14, 15日 「第10回日本登山医学シンポジウム」への協力 アルカディア市ヶ谷
 11月 17日 シンポジウム「登山用両具」 安田 武, 斎藤利忠他 青山学院大学
- (3) 講習会
 10月 20~21日 岩登り講習会 講師 藤原雅一 小川山
 3月 15~17日 スキー登山講習会 至仏山
 (4月 5~7日 スキー登山講習会) (雪倉山)
 (4月 19~21日 スキー登山講習会) (八甲田)
- (4) 展覧会
 3月 15日 第27回 この一本展「山の画文集」 本会
2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業
 ・上高地山岳研究所を4月28日~10月22日まで開所
 ・山に関する貴重なフィルム, スライド等の充実
 ・山の高さに関する委員会(国土地理院)への協力
 ・山岳博物館準備のための資料収集と整理
 ・山岳図書の充実
 ・上高地山岳研究所改築特別委員会の設置及び検討
3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
 ・各大学医学部山岳部による夏山診療所の開設に協力 檜ヶ岳他 7月~8月
 ・登山者向け「春山登山についての要望書」を発表
4. 自然保護活動の推進
 9月 15~16日 全国自然保護集会・函南原生林, 柿田川視察 三島市 箱根の里
 10月 16日 ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラスト発会式に協力 国際文化会館
 10月 18~19日 鳥海山南麓スキー場予定地現地調査及び八幡町に対し要望書提出 八幡町
5. 海外登山の企画および海外との交流
 7月~8月 バミール登山キャンプ参加 青年部
 7月~8月 天山山脈・雪連峰登山の実施 東海支部
 11月~12月 ナムチャバルワ峰偵察
 ・海外登山基金より600万円の援助・助成金を6隊に対し交付
6. 機関誌などの発行
 ・「山岳」第85年(1990年)号の発行
 ・会報「山」第538号~第550号の発行
 ・「登山医学」第10巻の発行に協力
 ・「山岳総合索引」の発行(平成3年5月発行予定)
7. 国内および外国山岳団体との連絡, 情報交換
 ・国内関係団体(日山協, 都岳連, その他)との密接な連絡
 ・海外登山団体との機関誌および情報の交換
 4月 29~30日 ヒマラヤン・アドヴェンチャー・トラストの第1回ヒマラヤ環境会議に参加 ニューデリー
8. その他目的を達成するために必要な事業
 ・タンボチェ僧院再建基金に協力

日本山岳会 平成2年度事業報告

(平成2.4.1~3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催
 (1) 集会, 講習会
 4月 7~8日 探索スキー(火山探索) 妙高山
 4月 15日 新入会員との日帰りハイク 大平山
 4月 20日 山岳図書を語る夕べ「ロシアの山と探索の本」 田村俊介 本会
 4月 26日 「この人と語ろう・山野井泰史」 学生部, 青年部 本会
- 5月 20日 女性懇談会山行 本社ヶ丸
 5月 26日 支部長会議 全共連ビル
 5月 26日 通常総会 全共連ビル
 6月 2~3日 第44回ウェストン祭 信濃支部 上高地
 6月 8~10日 第14回若葉会山行 鬼首 禿岳
 6月 15~17日 学生部小川山集会 小川山
 6月 17日 自然観察山行「富士山の自然を訪ねる」 富士山五合目
 6月 22日 映画と試写会「ビデオ鑑賞とビデオの写し方」 本会
- 6月 28日 マカルー, チョオユー報告会 本会
 6月 29日 「熱気球のヒマラヤ越え」 大蔵喜福 本会
 7月 3日 「トルコからヒマラヤへ」 遠藤京子 本会
 7月 14日 自然保護講演会「山岳会における自然保護活動はいかにあるべきか」 村木潤次郎 本会
 7月 16日 講演会「中高齢者の登山と健康」 A.デーケン, 脇坂順一 有楽町マリオン
- 9月 15~16日 スケッチ山行 上高地 山岳研究所
 9月 30日 現地小集会「石間信夫さんと山歩き」 子持山
 10月 3日 バミール報告会 本会
 10月 5日 新入会員懇親会 本会
 10月 6~7日 女性懇談会全国集会尾瀬の集い 尾瀬長蔵小屋
- 10月 8日 カナダ山岳会J.ステファニック氏夫妻を囲む集い 本会
- 10月 13~14日 全国支部集会90歳王の集い 山形 蔵王
 10月 20~21日 探索山行「磐司岩の人と自然」 宮城 大東岳
 11月 2~3日 第6回宮崎ウェストン祭 高千穂
 11月 3~4日 東九州支部30周年記念(90由布岳の集い) 由布院
- 11月 29日 モンゴル女性登山家を囲んで 女性懇談会 本会
 12月 1日 支部長会議 新高輪プリンスホテル
 12月 1日 年次晩餐会 新高輪プリンスホテル
 12月 2日 第27回マラソン大会(学生部) 神宮外苑
 12月 11日 古典山岳映画(ビデオ版)鑑賞会 本会
 12月 16日 現地小集会 生藤山
 1月 10日 冬山登山報告会(学生部) 本会
 1月 12~15日 スキー懇親会 八方尾根
 2月 15日 第19回山岳史懇談会「山想をめぐる人々」 五十島一晃 本会
- 2月 17日 現地小集会 黒斑山
 3月 3日 自然観察山行 両神山

- ・第20回「山岳史懇談会」 本会 未定
- ・第23回「山岳図書を語る夕べ」 本会 未定
- ・山岳スキー講習会(3回)(指導) 未定 3月～4月
- ・新入会員オリエンテーション 本会 3月

(ロ) 研究会

- ・第11回登山医学研究会 北里研究所北里本館 7月13, 14日

(ハ) 講演会, シンポジウム

- ・ミニ講習会「登山におけるトレーニング効果」 3月10日
- ・シンポジウム「小屋の尿処理」 青山学院大学 4月6日
- ・シンポジウム「山における雷の問題」 青山学院大学 7月6日
- ・シンポジウム「山における雨衣Ⅲ」 青山学院大学 未定
- ・「疲労」「装備」に関する講演会 未定

2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業

- ・上高地山岳研究所の開設及び改築計画の検討ならびに解体 4月～10月

- ・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の複製および貴重な資料の収集, 整備, 管理

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- ・遭難救助研究会(学生部) 未定 12月
- ・中高年の健康管理と遭難予防セミナー 未定

4. 自然保護活動の推進

- ・全国一斉清掃登山の実施(HAT-J)に協力 各支部 6月2日～9日
- ・自然保護全国集会 新発田市及び飯豊山麓・湯の平温泉 6月29～30日
- ・自然観察山行 玉原湿原 9月1日
- ・自然観察山行 奥武蔵 2月
- ・自然環境保全のための現地視察 三国山 未定
- ・自然保護に関する講演会 未定 2回
- ・JACの自然保護活動の歴史の調査, 編集

5. 機関誌などの発行

- ・「山岳」第86年(1991年)号の発行
- ・「山岳」総合索引の発行
- ・会報「山」第551号～第562号の発行
- ・会報「山」510～550号総目録の発行
- ・「登山医学」第11巻の発行に協力
- ・「日本の山」スライド第2集の作成

6. 国内および外国山岳団体との連絡, 情報交換

- ・国内関係団体(日山協, 都岳連, その他)との密接な連絡
- ・海外登山団体との機関誌および情報の交換
- ・ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト国際会議に協力 11月9～10日

7. 海外登山

- ・ムスタグアタ登山隊の派遣(青年部) 7月～8月
- ・日中合同ナムチャバルワ峰登山隊の派遣 9月～12月
- ・ナムチャバルワ・トレッキングの実施 9月～10月
- ・ネパール・ヒマラヤ・トレッキングの実施 10月～11月

8. その他目的を達成するために必要な事業

- ・山岳図書の拡充をはかる
- ・その他目的を達成するために必要な事業を行う

日本山岳会 平成3年度事業計画(案)

(平成3.4.1～4.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会, 研究会, 講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

- ・新入会員歓迎さくらハイク(総務) 岩殿山 4月14日
- ・ゴールデンウィーク合宿(青年部) 剱岳ハツ峰 5月2～6日
- ・支部長会議 東京・コープビル 5月18日
- ・支部事務局担当者会議 " 5月18日
- ・総会 " 5月18日
- ・岐阜支部創立20周年記念山行 恵那山 5月25～26日
- ・山岳映画鑑賞会 本会 6月24日
- ・初夏合宿(青年部) 谷川岳 6月1～2日
- ・第15回若葉会山行(集会, 岩手支部) 岩手・七時雨山 6月8～9日
- ・小川山岩登り集会(学生部) 小川山 6月
- ・第45回ウェストン祭 上高地 6月1～2日
- ・国際情報研究会(海外) 未定 6月下旬
- ・報告講習会(チョモランマ等91プレモンズン登山)(青年部) 未定 6月下旬
- ・沢登り講習会(学生部) 未定 8月
- ・現地小集会 未定 7月
- ・探索山行・湿原と植物(科学) 未定 7月
- ・懇親山行(婦人懇談会) 東京近郊 7月
- ・支部事務局担当者会議 東京 未定
- ・全国支部集会 富山支部 9月28～29日
- ・ハードフリー講習会(学生部対象) 未定 10月
- ・ムスタグアタ登山報告会(青年部) 未定 10月
- ・トリヴォール, ブロードピーク登山報告会(高所登山委員会) 本会 10月初旬
- ・ビデオ映写会Ⅱ 本会 未定
- ・「山を語る」講習会(集会) 未定 10月
- ・女性懇談会全国集会 秋田・八森 10月
- ・新入会員懇談会 未定 10月中旬
- ・秋合宿(青年部) 未定 10月中旬
- ・第23回「山岳図書交換会」 本会 未定
- ・ビデオ撮影会 未定 未定
- ・初級岩登り講習会(指導) 未定 10月
- ・現地小集会 未定 11月
- ・第28回マラソン大会(学生部) 皇居周辺 11月
- ・国際情報研究会(海外) 未定 11月下旬
- ・支部長会議 12月7日
- ・年次晩餐会 12月7日
- ・懇親山行 未定 12月8日
- ・講習会兼忘年会(青年部) 本会 12月
- ・スキー懇親会 八方尾根 1月
- ・氷雪スキー合宿(青年部) 未定 2月
- ・ハヶ岳集会(学生部) 赤岳周辺 2月
- ・戸隠スキー集会(女性懇談会) 戸隠 2月



自然保護憲章と五輪塔

— 永遠の哲理を表象 —

広瀬 潔

昭和四十九年六月五日「自然保護憲章」が国民会議で採択され、同日NHKホールで皇太子ご夫妻ご臨席の下に「宣言式」が挙げられた。私も招待を受け、その式に列席した。

このような「自然保護憲章」の制定

は世界でも初めてのことで、日本の「産業、交通、観光」などによる「自然破壊」がいかに烈しかったかを、反映している。

憲章の中には「……人間は、日光、大気、水、大地、動植物などとともに自然を構成し……」なる一文があるが、これを読んだ私は、一面昔から伝わってきた仏教(密教)の「五輪塔」が頭に浮かんで来た。

仏教でいう「五輪」は、「物質構成の要素」である「五大(地・水・火・風・空)」を表徴したもので、この五大が完全に整い調和しないと、すべてのものが成り立たない。この「哲理」を具象化したものが、「五輪塔」であった。

五輪塔は昔から泥・石・金銅などで造られ、下から四角形・円形・三角形・半月形・如意珠形の順に積み上げられていた。それが順に地・水・火・風・空を表徴している。

五輪塔を静かに眺めていると、その「調和感」と「精美感」に打たれ、心が安まる。

万物の自然調和。それが「根本」であることを、五輪塔は「形」で表わしている。自然保護憲章はそれを「文」で示している。その「哲理」には変りがない。

カラパタール便り(2)

カラパタールの帰りパンボチェ寺院にイエテの頭をみよった処、四月十二日夜、何者かに寺の外壁のカギをこじあげ、内陣のカギをヤスリで切つて、寺の宝物の(イエテの頭と手)をぬすんで去つたとのこと。

タンボチエ寺院の外観は出来上り、現在内装工事期に入っています。昔の寺の二倍位の大きさに新築されています。以前に異なり、寺前の広場にはホテルが三軒。にぎやかにトレッカーが群り、天幕泊りのトレッカーが何か場ちがいの感じ。エベレスト街道も昔のムードが薄れて来ています。

日本登山隊がベースキャンプをゴミでよごし放しなので、ネパール国から依頼され、焼却場建設場を視察すると言う日本人に会った。

編集宛 五月七日付(山本朋三郎)

報告

永年会員、中沢真二氏を

かこむ談話会

中沢真二永年会員は、尾瀬発電計画によって尾瀬ヶ原が水没するのを未然に防いだ功労者の一人である。ながく

その事実は知られていなかったが、満一〇〇歳という年齢を迎えるに当たって、会員、とくに尾瀬に関心の深い方々に話しておきたいという申し出があった。そこで五月二十三日、山田会長はじめ数名がルームに集まり中沢会員の話を拝聴した。

中沢氏は大正六年東京電灯(株)に入社、以来二十数年間発電所建設に携わつてこられた。尾瀬ヶ原の保存運動で有名な武田久吉博士とも親交があり、博士の紹介で大正十二年頃、平野長蔵氏の来訪を受け、尾瀬に発電所を作らぬよう要請されたこともあった。戦後、電力需要の急増によって発電計画が実施されようとしたとき、果して尾瀬に、多くの反対を押し切つてまでして発電所を作る価値があるかと、その降水量と流域面積から計算した結果、年間おおよそ八五〇〇キロワットの発電量であつて建設する価値はないとの結論に達した。

このことを「尾瀬保存期成同盟」の第三回の会合(昭和二十五年三月八日)で発言したが、商工省水力課長、山岡包郎氏から推定降雨量(一二〇〇ミリ)が少なすぎると指摘された。そこで水力課に赴いて、只見川田子倉の測水表から計算したところ、一一七〇ミリという数値が出たため、山岡課長は即座に「尾瀬の発電はやめろ」と決断された。

この事実、当時同じ電力関係の研究に携わっていた中沢氏の口からは公にできない事情もあって知る人は殆どいない。山岡課長も亡くなった現在、ぜひ会員諸氏に語り残しておきたい、という主旨のものであった。(以上の経緯の詳細は、中沢真二「尾瀬ヶ原をのこした記録」会報『山』四九二号(昭和六十一年六月)・一高同窓会報第一八九号(平成元年七月十五日)および中沢透「尾瀬を守った知られていない記録」自然保護 No. 342 (1990. 11)、No. 343 (1990. 12) に述べられている)。

最後に中沢氏は自作の木彫二面(平野長蔵・武田久吉)を取り出し、この型から製作したレリーフに前述のいきさつを記して、尾瀬の何処かに残したいとの希望が出され、山岳会として前向きに検討してみることにした。

出席者 山田会長、松田副会長、島田名誉会員、松丸秀夫、穴田雪江、近藤緑、中村武雄、澤井政信(記録・澤井)

名誉会員を囲む会

昨年に引きつづき、今年も、東京・銀座の交詢社において、五月十一日(土)午後、開催された。出席者は、名誉会員十一名を含む二十名で、昼食に引きつづき別室で懇談にうつったが、やは

書籍・雑誌受入れ報告

1990 11 月

1 福井正身著	「松阪の山 20 山」	福井正身	平 2	(著者寄贈)
2 神戸山岳会編	「神戸山岳会創立五十周年記念号」	神戸山岳会	1990	(発行者寄贈)
3 東洋大学体育会山岳部編	「1988 年冬山合宿遭難事故報告書」	東洋大山岳部	1990	(発行者寄贈)
4 奥田博・伊藤繁著	「東北山スキー 100 コース」	山と溪谷社	1990	(発行者寄贈)
5 京都山岳会編	「創立 70 周年特別号」	京都山岳会	平 2	(発行者寄贈)
6 広島山の会編	「山毛櫨林 創立 40 周年記念誌」	広島山の会	1990	(発行者寄贈)
7 佐藤芝明著	「山の神 民族と信仰」	丸ノ内出版	平 2	(著者寄贈)
8 三水会編	「三水会十五年の歩み」	三水会	平 2	(斎藤健治氏寄贈)
9 早稲田大学岳友会編	「Alpine Forum 4号」	早大岳友会	1990	(発行者寄贈)
10 中田 修訳	「アムンゼン 南極点」	ドルフィンプレス	平 2	(訳者寄贈)
11 中田 修訳	「スコット 南極探検日誌」	ドルフィンプレス	平 2	(訳者寄贈)

書籍・雑誌受入れ報告

1990 12 月

1 新妻喜永著	「北ハッ逍遙」	山と溪谷社	1990	(発行者寄贈)
2 村口徳行著	「マナスルを越えるツル」	ビジュアルフォークロア	1990	(発行者寄贈)
3 千田博之著	「青海高原 西蔵から成都へ」	ナカニシヤ出版	1990	(発行者寄贈)
4 横浜山岳会編	「横浜山岳会創立 60 周年記念誌」	横浜山岳会	1990	(発行者寄贈)
5 古川 修復刻	金子雋自筆 「直海溪遊記」	山路の会	1990	(発行者寄贈)
6 古川 修復刻	「白岳遊記」金子盤蝸稿	山路の会	1990	(発行者寄贈)
7 古川 修復刻	「立山遊記」金子盤蝸稿	山路の会	1990	(発行者寄贈)
8 京都大学学士山岳会編	「京都大学ヒマラヤ医学部登山隊 1990 年報告書」	京大学士山岳会	1990	(発行者寄贈)

書籍・雑誌受入れ報告

1991 年 1 月

1 日立中央研究所アルパイン部編	「山びこ 創立 30 周年記念号」	日立中研アルパイン部	平 2	(発行者寄贈)
2 坂倉登喜子・小川清美著	「関東周辺 山と地酒の旅」	新潮社	平 2	(著者寄贈)
3 多田繁次著	「ひょうご低山遍歴 なつかしの山々」	神戸新聞総合出版センター	平 2	(著者寄贈)
4 西川一三著	「秘境西域八年の潜行(中)」	中央公論社	1990	(発行者寄贈)
5 布川欣一著	「山道具が語る日本登山史」	山と溪谷社	1990	(発行者寄贈)
6 山田 格著	「残雪とお花畑・紅葉と温泉の朝日連峰」	山田 格	1990	(著者寄贈)
7 福島由利子編	「女子登攀クラブの 20 年」	女子登攀クラブ	1990	(発行者寄贈)
8 藤本一美著	「山岳ノート」	藤本一美	1990	(著者寄贈)
9 山と溪谷社編	「山溪カラー名鑑 日本列島」	山と溪谷社	1991	(発行者寄贈)
10 風見武秀著	「カメラ片手に地球を駆ける」	山と溪谷社	1991	(発行者寄贈)

りアルパインクラブの名譽会員だけあって、前半の話題は、ナムチャバルワ登山に集中し、堀田、田口、今西さんなどから、貴重なアドバイスをいただいた。

ついで、名譽会員各位より、一言ずつスピーチをいただいたが、麻生さんの、芸能界からスカウトされた話、吉沢さんの医薬品の世話にならない健康

●ナムチャバルワ

トレッキング隊募集!!

既に会報等でご高承のように、本会は、今秋九月より未登のナムチャバルワ峰への登山隊を派遣します。

併せて同隊のベースキャンプを訪問するという形式で、中国登山協会からトレッキングの特別許可(限定三十名)を取得しました。ヒマラヤの東端に位置する同峰周辺は、ヤルツアンポの大屈曲部にあたり、地図上の空白部として、世界の岳人、探險家の垂涎の地で、希少動植物の宝庫といわれています。

同峰に対する中国政府の特別登山許可は三年間(一九九〇〜九二)に限定されたものですので、ベースキャンプ訪問は、唯一になる可能性が大であります。高所登山委員会を

法、島田さんからは、当会最長老一〇〇歳になられた中沢永年会員の尾瀬を守った記録についての話題が提供された。

山田会長のフリークライミングは登山かという問題の提起や、藤平副会長からの中高年登山の問題に対するコメントとして田口さんからは「環境問題、高齢化、登山の多様化、国際化の

窓口として左記の概要で行いますので、興味のある会員は是非ご参加下さい。

記

日程およびコース

A隊 十月十日〜十月二十七日(十八日間) 東京↓北京↓成都↓ラサ

↓ベースキャンプ(復路も同じ)

B隊 十月二十日〜十一月六日(十八日間) 東京↓北京↓成都↓ラサ

↓ベースキャンプ↓ラサ↓カトマンズ↓東京

《費用》 約七十五万円(中国登山協会と折衝中)

《参加者》 A、B各隊十五名。本

会の会員に限る。

《資料請求先》 ナムチャバルワ登

山隊事務局 ☎〇三三三三三九一七

九一五 FAX〇三三三三三九一七

九一六 高所登山委員会

九一六

問題は、登山に限ったことでなく、地球上で現在問題になっていることばかりである。JACとしては、この問題を避けて通ることは簡単ではあるが、出来ることなら、一つ一つ問題を採り上げて、自分の問題として取り組んで欲しい。」旨の強い要望が述べられた。

最後に遠く離れたアデレード在住の中村テル名誉会員に寄せ書きをしたため、記念撮影を行って、午後三時すぎ、一応のお開きとなったが、なお去り難い長老方は席を移して、夕方まで余韻を楽しんだ。

出席者 麻生、吉沢、島田、田口、堀田、谷口、織内、望月、佐々、関根、今西の各名誉会員、山田会長、村木、藤平副会長、大塚、嶋原、大島、橋本各評議員、太田監事、松田理事以上二十名 (Y・M)

国際化交流事業

海外連絡委員会

国際山岳連盟(U I A A)および各国山岳会との交流のなかで昨今感じることとは、地球はひとつ、世界は同一性にむかう時代となり、国内、国外(海外)というようなことが薄らいできつつあり、地球全体レベルで物事を考え推し進めていかなければ国内的にも充実をはかれないものや、国内のことを

広く世界に広報し、呼びかけていかなければ価値のないような時代ともなってきました。

日本からも数多い登山隊がヒマラヤはじめ世界の山々に出掛けて行っている現実のなかで「マナー」ひとつ考えても国際感覚を身につけていかなければなりません。また、世界的な規模での遭難対策を各国が情報交換し、力を合わせて実践したり、自然保護、環境保全等の問題にいたっては登山隊や母体となる山岳団体の義務的付帯事業とし登山の一部化をはかり、すでに国際山岳連盟や各国の山岳団体では登山隊のなかに装備や食糧担当と同じような環境保全、清掃専門機関を義務づけて



名誉会員を囲む会

きています。

国際交流については、行政的、親睦的、いろいろ難しい面もありますが、登山という同じ目的をもつ人たちの国際的なマナーともうけとめ、当会も世界の登山界の一員として貢献したり、期待されたりする交流のなかに国際的秩序が保たれていることを意識して行きたいものです。国際山岳連盟においても実績の高い日本の理解、協力を期待しておりますが、今年から来年にかけて次のような国際交流事業が日本で開かれます。

① スポーツクライミング・ワールドカップ国際大会

期日 一九九一年十月十六日(水)二十

日(日)

会場 代々木公園周辺

② ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト(省略HAT-J) 自然保護国際シンポジウム

期日 一九九一年十一月九日(土)十日

(日)

会場 昭和女子大 人見講堂(講演)

他

内容 国際会議、シンポジウム、講演、交流懇談会、その他

ゲスト(予定・略称・順不同敬称略) エドモンド・ヒラリー氏(ニュージランド)、キャプテン・コリー氏(インド)、ミルザ氏(パ

キスタン)、ボカレル氏(ネパール)、史占春氏(中国)、ミスロフスキー氏(ソ連)、クリス・ボニントン氏(イギリス)、リチャード・ブラム氏(アメリカ)、ホセ・バンデプール氏(ベルギー)、セガンチーニ(UIAA会長(スイス)、ラインホルト・メスナー氏(イタリア)、モリス・エルゾグ氏(フランス)、その他

③ ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト富山集会(国際集会)

期日 一九九一年十一月十一日(月)十四日(木)

④ 国際山岳連盟(UIAA) 理事会・総会(国際会議)

期日 一九九二年十月十一日の間の二日間

参加予定人員 メンバー(チャマン)五十名+同行者一〇〇名+一五〇人(推定数)

第四十五回ウエストン祭

信濃支部

恒例のウエストン祭が六月二日新緑の雨降りのなか上高地で行われた。今年にはウエストンが初めて上高地へ入山した明治二十四年から百年目で、祭は

回を重ねて四十五回という節目の年にあたる。十三年ぶりの雨となったが傘やかっぱの人々が約千人参加した。

十時赤羽信濃支部長の開会挨拶から始まり、地元安曇小学校の四年生二人がウエストンのレリーフに献花。エーデルワイスクラブの七十人がウエストンを日本の友と歌う「ウエストン祭の歌」をささげた。その後ウエストンのび、今シーズンの山登りの安全を願って黙とうした。

日本山岳会々長挨拶で山田二郎会長は「山の天候がどんどん変わるの山では当然。今日の雨はそのことを指摘してくれている」と述べ、登山者に改めて注意を喚起した。

詩の朗読は尾崎喜八先生四十年六月六日作の「碑前にて」。以上が式典。

第二部 記念行事

まず、昨日の徳本峠越え上高地入りをした記念山行の報告が北林リーダーより「村木前副会長を先頭に、八十三歳の宮原支部会員から安曇小学校児童八十七名まで三百余人が、一日午前六

時島々宿を出発、緑の芽吹きの間島々谷から徳本峠を越えた」とあった。田部井淳子氏の記念講演は「美しかった南極ヒンソクマシフからHATのお話。この美しい上高地を手本に日本中の山をきれいに」といっそうの登山者としてのモラルの向上を訴えた。

かわいらしいアルプス少年少女合唱隊とエーデルワイスクラブのみなさんにより「夏の山」「歓びの歌」参加者全員で「雪山讃歌」「今日の日はさようなら」合唱。来年もまた、ここでお会いしましょうと閉幕。

なお特別行事として碑前祭前の早朝八時より九時半までHAT-J「日本の山の清掃週間」の初日として田部井代表を先頭に、約百人が三班に分れて河童橋から碑前まで一斉清掃しました。

また碑前祭終了後、これも恒例で地元関係者との午餐会が実行委員会現地本部の清水屋ホテルで行われた。その折り、ウエストン入山百年を記念して「四十五年にわたりW祭を開催し、近代登山の父ウエストンを讃え、山の厳しさと大自然を慈しむ心を多くのの人々に教えて下さった」活動に対し、安曇村有馬佳明村長より山田二郎会長に感謝状が授与された。

また念願だったレリーフ英文解説板が訂正新調でき取りかへできました。参加者 信濃支部員四十一名同伴六名 佐々保雄、田部井淳子、山田二郎、藤平正夫、松田雄一、村木潤次郎、小倉茂暉、董子、石橋正美、山口俊輔、藤井正彦、穴田雪江、織田沢美知子、鈴木郭之、神崎忠男、吉村健児、村上勝太郎HAT-J関係者の会員多数(順不同)

(田中弘美)

・会務報告

五月定例理事会

五月十六日(木)十八時三十分

場所 本会会議室

出席者 山田会長、村木、藤平副会長、松田、西村、重広、山本、入沢、小倉、穴田、石橋、関口、織田沢、松本、神崎、藤井の各理事、太田、飯野両監事、橋本、小倉、大島各常任評議員(委任)伊丹、早坂、小林の各理事、鳴原常任評議員

▽議事

議事に入る前に林野庁・森林総合利用対策室の伊藤元室長、梅田課長補佐両氏の来訪を受け、目下検討中の森林インストラクター養成システムについての説明を受けた。質疑応答が行われ、本会としての要望も伝えられた。

次いで山田会長よりこの度任期を終えて退任される役員各位に対し謝辞が述べられ、議事に入る。

(1)総会付議事項の確認の件

「細則」支部設立ならびに運営に関する規定」改定案等についての最終確認が行われ、併せて五月十八日に行われる一連の会議の議事進行について打合せが行われた。

(2)図書室の管理移管にともなう、予算配分変更の件：原案通り承認

(3)ナムチャバルワ計画の件

議定書の調印に引きつづいて行われた登山隊幹部による日中会談の内容、ならびに今後のスケジュールについての説明があった。

(4)山研改築の件(石橋)

現況報告ならびに募金計画の説明が行われた。

(5)募金委員会発足の件(橋本)

(6)HAT-J清掃登山の件(神崎)

(7)生涯スポーツ関連団体連絡協議会報告(穴田)

(8)名誉会員を囲む会の報告(松田)

(9)自然保護委員会報告(松本)

支部長・支部事務局担当者会議

日時 五月十八日(土)十時

場所 コービル五階会議室

出席者 山田会長、村木、藤平副会長、長、松田、藤井、西村、石橋、松本、入沢、神崎の各理事の他総務委員

(北海道)小須田、(岩手)佐藤、(秋田)佐々木、(山形)菊地、清水、(宮城)西郡、佐々木、(福島)中嶋、野地、(越後)佐藤、山田、(山梨)古谷、遠藤、(静岡)安間、横井、(信濃)赤羽、

田中、(岐阜)松井、高木、(東海)鈴木、小川、(富山)若林、石坂、(関西)阿部、篠崎、(京都)斎藤、杉山、(山陰)吉川、中井、(福岡)権藤、副島、

(東九州)梅木、西、(熊本)田上、(宮崎)魚本、大谷

▽議事

(1)会長挨拶

(2)支部設立ならびに運営等に関する規定改定の件

質疑応答の後、原案通り承認する。

(3)終身会費納入に伴う支部還元金の件還元率十％につき質問があったが、

原案通り承認、併せて細則第十一条に還元金の額を明記することも承認する

(4)次回支部事務局会議開催の件各支部の希望をアンケートで調査したところ、開催場所は東京、時期は一

任ということになった。詳細は総務担当でつめることにする。

(5)本部からの連絡事項

各担当理事より、大要次の通り要望のべられた。

環境月間の清掃登山は、六月上旬各支部でも実施して欲しい。『山岳』支部

だよりの執筆依頼、全国自然保護集会への参加要望、HAT、UIAA等の

国際行事の案内、会報への行事案内の早期連絡。

(6)支部現況報告

用意された支部長会議資料にもとずき、各支部の現況報告が行われたが、

共通点等を要約すると、次の通りである。

・支部費を徴収せずに還元金に頼って運営している支部では、財政的に苦

しく還元金増額を要望する声が聞かれた。

・地方在住者の支部加入を義務づけろべしとの声が聞かれたが、これはあく迄本人の意志次第。

・清掃登山の計画は半数以上の支部に見られた。他支部にも協力要請。

・中年対策は、昨年から継続テーマ、マニュアル作成を行いたい。

・海外登山は五支部に計画があった。

・自然保護全国集会の様な集会对し旅費の補助の要望があるが、どの集

会にしぼるかは今後の課題。

評議員会

五月十八日 十六時〜十六時半

場所 コービル第四会議室

出席者 山田会長、藤平、松田副会長、橋本、大塚、吉村、室賀、佐藤、河野、

西丸、村木、徳久、鈴木、国見、斎藤、

代理、小倉常務理事

(委任)今西、奥原、鳴原、大森、田

部井の各評議員

▽議事

(1)常任評議員互選の件

鳴原啓佑、橋本清、西村政晃、斎藤惇生、湯浅道男の五名を選任する。

(2)その他

新年度第一回理事会

五月三十日(木)十八時三十分

場所 本会議室

出席者 山田会長、藤平、松田両副会長、小倉、重広、山本、入沢、小倉、穴田、石橋、関口、山口、神崎、大森、片岡、南川、藤井、大倉、村井の各理事、飯野、中島両監事、橋本、西村、湯浅の各常任評議員

(委任出席) 嶋原評議員

▽議事

●会長挨拶

本年度はナムチャバルワ、HAT、山研の準備と募金があり、さらに中高年対策や自然保護の分野も、ますます複雑になり、この二年間はかなりハードになると思われるが、各担当分野で宜しく願いたい。

委員会の運営についても、その性格付けを明確にしていき、逐次改善していくことを期待している。

(1)常務理事互選の件

互選の結果、次の五名を選任する。

小倉茂暉、大倉昌身、重広恒夫、神崎忠男、大森弘一郎

なお、常務理事会に出席するメンバーは、正副会長、常務理事、伊丹、藤井理事も出席する。

(2)理事任務分担の件

山田会長より左記の通り委嘱された。

た。

小倉(茂)……総務(図書室管理、山研を含む)

大倉……財務(募金委員会)

重広……高所登山(ナムチャバルワ)

神崎……海外連絡(HAT-J)

大森……自然保護・科学研究

伊丹……高所登山

藤井……総務

入沢……集会

穴田……女性懇談会(婦懇を改称)

小倉(厚)……会報編集

山本……図書

関口……医療

石橋……山研

山口……資料・フィルム

村井……青年部・学生部指導

片岡……指導・遭対

南川……山岳編集

(3)社団法人の理事の責任と権限について(松田)

(4)審議事項

①支部長交替の承認

・山形支部 村上勝太郎→大橋克也

・宮城支部 庄司駒男→西郡光昭

②宮城支部の四川省羊拱山登山隊の後援依頼の件……承認。

③コピー機更新の件……承認。

④アテネ書房より『ヒマラヤへの挑戦』全三巻に本会の出版物より転載したい旨依頼の件

原則として異存ないが、版元の了解をとる必要のあるものもあるので本件は山本理事に依頼する。

(5)報告事項

①支部長・支部事務局担当者会議報告(松田)

②スポーツ振興基金について(松田)

③評議員会報告(橋本)

④岐阜支部創立二十周年記念登山(山田他)

⑤南阿山岳会創立一〇〇周年祭に招待の件(海外連絡)

現在アフリカ在住の会員がいないので、祝電を打つことにする。

⑥永年会員中沢真二氏を囲む会

五月二十三日山田会長以下八名の関係者で、中沢氏の要望を伺った。本会としても前向きに検討することにした。(注)十一頁記事参照

⑦「山の高さに関する委員会」報告

三年間十回に及んだ会議は終了し六月末に「日本の山岳標高(一〇〇三山)」という名で報告書が刊行される。

⑧ナムチャバルワ登山準備報告(橋本・重広)

⑨山研改築準備の件(石橋)

⑩HAT-J現況報告(神崎)

(6)各委員会報告

各担当理事より、その後の委員会の経過、引継状況等につき報告があった。

・ルーム日誌

(5月)

8日 青年部

13日 総務委員会

15日 三水会

16日 理事会、科学委員会

17日 図書委員会

20日 総務委員会

21日 フィルム委員会

23日 中沢真二氏のお話を聞く会、女性懇談会、資料委員会

28日 自然保護委員会

29日 アルパインスキー

30日 新年度第一回理事会

5月来室379名

………
会員異動

5月

物故

上原国男(九四〇四) 2・10・16

安田耕馬(九一四七) 1・29

久保信一(八三二三)

酒井昭市(六四一九) 3・28

進藤波男(一八六三) 4・22

井上治郎(六八八七) 1・4

賀谷繁雄(三七二五) 5・14

松沢潤吉(一九六五) 5・18

退会

今井春男(九一二八)

川井一郎(七五九二)

日本極地研究会(二二九一)

久合田弘(九五四五)
上野文子(七六七二)
南安男(八八一五)
早坂禮吾(五六〇八)
片野次雄(五四七六)
終身会員へ
今井友之助(二九一一)

**タンポチエ僧院再建協力
募金者ご芳名**

二万円イワブチエンロク。五千
円イノウエショウスケ、ワタナベハ
ルコ。
六月三日現在累計四四二名、累計金
額五、八一七、三四〇円



☎ 3234-6659

この電話で
もお知らせ
しています

●平成三年度日本山岳会
全国支部懇談会立山集会

「秋の立山を楽しむ」

主催 (株)日本山岳会
主管 (株)日本山岳会富山支部
場所 立山 ①宿泊地…立山高原ホテル
天狗平山荘 ②山行…立山周
辺

期日 平成三年九月二十八日(土)〜二十
九日(日)

日程 ①九月二十八日(土)
A 受付 一〇〜一五時 立山高
原ホテル

B シンポジウム 一五・三〇
〜一七時 立山高原ホテル

中高年登山者の視点(安全)
パネラー(本部、支部長、山
岳警備隊、山荘主、ガイド協
会等)

C 懇親会 一七・三〇〜一九時
立山高原ホテル

②九月二十九日(日) 山行

A 雄山往復(原則的)

・雄山―天狗平―室堂間

・浄土山 バス使用

B 自由山行(自主行動、ただし
事前にコースと人名を届け出
て下さい)

参加費

一人 一七〇〇〇円(宿泊、
懇親会、記念品、バス代、昼
食代、保険料等)

参加申し込み方法

左記の所に振込ま
たは現金書留で入金、受領し
た時に申し込みとさせていた
だきます。

申し込み期限 平成三年八月二十四日

送金先

銀行振込 北陸銀行本店 日本山岳
会富山支部 口座 普通預金 〇九

一七七三〇

現金書留 富山市白銀町二一五若林

商店内 日本山岳会富山支部

問い合わせ先

〒936 富山県滑川市中村五三石坂久忠

☎ 〇七六四一七七ー一三三四 夜間

〒936 富山市布市八三六―二木戸繁良

☎ 〇七六四二九一ー〇九二

●エベレスト地図最新版

一九八八年十一月、ナショナル・ジ
オグラフィック・ソサイティ(NGS)
は、ナショナル・ジオグラフィック・
マガジンの付録として、スイス写真測
量会社とスイス連邦地誌研究所の協力
のもとに、五万分の一のエベレストの
地図を作成しました。この高品質の地
図は、即座に世界の注目を浴びまし
た。市場に出ることはありませんで
した。

スイス山岳財団(SSAF)は、ポ
スト科学博物館と共に、NGSより
版權を取得するのに成功しました。こ
の地図は一九九一年七月半ばに出版販
売されます。

主要な変更

表面

初版では、中国(チベット)の部分
の中国名は、英語への音訳をベースに
して用いられていました。これは、よ

く知られた山や氷河の突然の変名と
なって、なじみのうすいものになっ
てしましました。

この新しい版では、英語の音訳のも
とを、元のチベット名にさかのぼり、
例えば、有名な、RONGPU氷河を
RONGBU氷河の様に直しまし
た。時には、二つの名を併記してあり
ます。例えば、チャンツェとベイ・
ピークの様にです。

裏面

裏面は、エベレストを中心に一五〇
*四方を二万五千分の一に拡大してカ
ラーに再現してあります(北面―南面、
チャンツェから、ローツェ、ジャール
の南面迄。西面―東面、エベレスト・
ベース・キャンプよりピーク三八の東
面迄)。この地域における一九五三年
(ヒラリー)から一九九〇年の、エベ
レスト、ローツェ、ローツェ・シャル、
ヌプツェ並びにチャンツェのすべての
初登が記されています。一九九〇年
ローツェ南面の初登(ユーゴのツェセ
ン、ソ連のベルシヨウ、カラターエ
フ)も含まれています。

このルートに加えるに、それぞれの
遠征隊(リーダー、登攀者、ルート記
載)についての短文をのせています。

この裏面は、ヒマラヤのエクスパー
トやヒマラヤ愛好者、地図収集者に
(19ページへ続く)

(17頁より)

とつても、独特な情報源となるものです。

一九九一年七月より、この地図は書店で二九スイスフラン(折り畳み)で売り出されます。またフラットのもものは三十フランで売り出されます。または、直接スイス山岳財団にお申し込み下されば入手出来ますが、一人一人では送料が高く事実上入手不可能です。でJAL事務局へお申し込み下さい。一括注文致します。

(海外連絡委員会)

●マップモニター募集のお知らせ

昨年に引き続き国土地理院では、地形図の愛好者、利用者でボランティアとして地形図に関する情報の提供を行う意志のある人をマップモニターとして募集します。(会報五四一号参照)

*

○内容…二万五千分一地形図の内容についての意見、情報提供(報酬はなし)

○公募人数、期間…二百名程度。十月より一年間。

○応募要領…①住所、②氏名、③年齢、④電話番号、⑤勤務先、⑥二万五千分一地形図の主な利用目的、⑦マップモニターを希望する理由および地

域(地形図名、市町村名等具体的に)を記入し、ハガキまたは封書で八月末までに左記へ直接お申し込み下さい。

〒305つくば市北郷一番 建設省国土地理院測図部管理課審査係 ☎〇二九八―六四―一一一(内五二七)

編集後記

▼総会も無事終わり、名実ともに新年度が発足しました。平成三年度の会報編集委員会は次の五名です。

小倉厚(担当理事)、小倉茂暉、高田

眞哉、江本嘉伸、細井澄子

精一杯頑張りますので、どうかよろしくお願い致します。

▼七月号は会報でレイアウト(割付)が最も難しい号です。苦劳しました。ご覧の通り総会関連の記事で埋ってしまい、他の記事が掲載できなかったことをお詫び致します。(小倉)

平成三年七月二十日発行

102 東京都千代田区四番町五一四

サンビュウハイツ四番町

発行所 社団法人 日本山岳会

発行者 山田二郎

編集代表 小倉厚

電話東京(326)四四三三

振替口座 東京三〇八二九番

東京都港区赤坂一三三六

赤坂グレースビル

印刷所 株式会社 技報堂